

令和2年4月部長会議 会議録（要旨）

- ◇日 時 令和2年4月2日（木） 午前9時10分から午前10時25分まで
- ◇場 所 市役所第一庁舎5階 庁議室
- ◇出席者 市長、副市長、教育長、上下水道事業管理者、総務部長、企画政策部長、財政部長、地域・市民生活部長、保健福祉部長、保健所長、こども未来部長、環境部長、商工観光部長、農林部長、建設部長、都市整備部長、会計局長、教育次長（行政及び教育）、上下水道局長、消防局長、議会事務局長、危機管理防災監、公有財産活用局長、市長公室長及び関係課職員

◇会議内容

<市長あいさつ>

- ・新年度を迎え最初の部長会議となる。それぞれの分野で力を遺憾なく発揮して、長野市をけん引して行ってほしい。
- ・各部局長は、部下からの提案を待つのではなく、自ら課題を探し常に解決策を考えるとともに、部下が働きやすい風通しの良い職場環境づくりに努めてほしい。
- ・仕事はスタートから1か月が勝負なので、前例踏襲に陥ることなく、おかしいと思ったことはすぐに直すよう心掛けてほしい。
- ・昨日、市内で新型コロナウイルスの感染事例が確認されたことから、今後も状況を注視しつつ、各所属において十分な対策をとってほしい。
- ・厳しい財政事情の下ではあるが、予算執行に当たっては創意と工夫を凝らし最善の方法を考え、本市経済にとって大きくプラスとなるよう、取り組んでもほしい。
- ・コロナショックによる市民生活の混乱と市内経済への打撃が心配されるが、いわゆる「3密」を避ける形での必要なイベント行事は開催する方針に変更はないので、過度な自粛はしないようお願いする。

1 報告事項

（1）令和2年度 予算執行方針について（財政部）

標記事項について、財政部長から報告を行った。（資料1参照）

○質疑

〔副市長〕財源については、国の予算を積極的に獲得するという姿勢が必要。従来は、国が制度設計した補助制度のどれが使えるかという発想だったが、今では、自治体側から積極的に良い提案をすれば国はそれを予算化してくれるという形に変わってきている。長野市は、被災自治体ということもあるので、本市にとって必要な事業については、国にどんどん訴えていくという考え方で臨んでほしい。

また、新型コロナウイルス感染症の影響による市有施設の収支の悪化が心配される。一般財源からの損失補填を避けるため、各所管課で早急に対策を検討してほしい。

2 協議事項

（1）第7次長野市行政改革大綱実施計画（案）について（総務部）

標記事項について、総務部長から説明し、協議を行った。（資料2参照）

○質疑

〔副市長〕目的達成のための手段として各種事業がある。事業を廃止する際、その目的達成に向け、市として継続して取り組む必要があるときは、代替事業による取組を検討、推進していくこと。各部局は施策の目的を踏まえ、適宜、実施手段の再検討を行う等、行政改革大綱の趣旨と総合計画上の施策の目的の推進につながるよう、

取り組んでもらいたい。

○今後の方向性

原案を了承。

(2) 長野市災害復興計画（案）の決定について（企画政策部）

標記事項について、復興局長から説明し、協議を行った。（資料3参照）

○質疑

〔財政部長〕 予算編成や財政推計のスムーズな実施のため、復興事業に関する予算のまとめをお願いしたい。

〔復興局長〕 7月上旬頃までに財源も含め事業の状況をまとめたいと考えている。併せて、事業の早期着手に向け地元と協議を進めていかなければならないため、各部局の協力をお願いしたい。

○今後の方向性

原案を了承。

(3) 災害公営住宅の整備について（建設部）

標記事項について、建設部長から説明し、協議を行った。（資料4参照）

○質疑

〔市長〕 被災者が、市営住宅等に入居できる期間が今年の11月に迫っている。それまでに転居先が見つからない人には、仮設住宅に移ることができるような対応策を考えてもらいたい。また、公営住宅等の入居者は、仮設住宅に転居できるのか。

〔住宅課長〕 国の基準で、現在、住まいが確保されていれば、仮設住宅への転居は難しい。

〔市長〕 公営住宅等にいるが、自宅の修理が完了せず退去期限に間に合わない方が、仮設住宅やみなし仮設住宅に転居することはできないのか。

〔住宅課長〕 現在、住まいの再建アンケートを実施中であるが、その中で今からでも仮設住宅に転居したいという方も若干いらっしゃる状況である。そういった需要も見込む中で、国とも協議していきたい。

〔市長〕 可能な限り、被災者に寄り添った対応をお願いしたい。

〔財政部長〕 今年度の当初予算に沖団地の解体費用が計上されているが、今後のスケジュールをお聞きしたい。

〔建設部長〕 豊野地区からは、沖団地の敷地に公民館などの建設要望がある。今後、復興局と調整を図りつつ、解体に当たっては国の財源をできるだけ確保できるように調整したい。

〔財政部長〕 一般財源を使わない方向でお願いしたい。

〔副市長〕 まず美濃和田団地で54戸、そして最大で120戸が必要になる見込みだが、それはどこに建設する予定なのか。

〔建設部長〕 基本的には、用地として確保できている場所が沖団地しかない。現在、沖団地には4区画あるが、地区に説明し理解を得る中で、建てられる場所に建設したいと考えている。

〔副市長〕 沖団地の解体後には公民館建設の要望があるようだが、調整の状況はどうか。

〔復興局長〕 地元からは、沖団地への住宅整備に難色が示され、老朽化した公民館の建替えや防災拠点となる施設を建設してほしいという要望がある。沖団地では、豊野地区復興のシンボルとなる事業を行いたいと考えており、今後地元と協議を行っていききたいと考えている。

〔副市長〕 そうなると、沖団地の敷地に建設するという事は難しいと思われる。できるだけ、美濃和田団地に建設しておくべきだと考えるが。

〔建設部長〕 美濃和田団地では、54戸に対し70から80台程度の駐車場を確保する予定であるが、配置などを検討し直して建設戸数を増やすことができないか検討したい。

〔市長〕 最終的に、120戸建設しても足りない場合、既存の空いている市営住宅等の活用も考えられるのか。

〔建設部長〕 一部の県営住宅を提供いただけるという話があるので、他の市営住宅の活用も含め、入居いただける

ように進めていきたい。

○今後の方向性

原案を了承。

(4) 城山公園再整備基本構想（案）に対するパブリックコメントの結果及び構想（案）の決定について （都市整備部）

標記事項について、都市整備部長から説明し、協議を行った。（資料5参照）

○質疑なし

○今後の方向性

原案を了承。

3 その他

(1) 令和2年度 部局横断的案件的取組について（企画政策部）

標記事項について、市長公室長から説明を行った。（資料6参照）

○質疑

〔農林部長〕案件の具体的な検討スケジュールはどうか。

〔市長公室長〕部局長が出席する全体の会議は年に2、3回。それ以外は、関係課長などで課題解決に向けた検討を行う。来年度の新規・拡大事業に盛り込むのであれば、概算要求までにある程度の方向性を決めることができるように検討していく。

〔副市長〕案件の内容やボリュームが一つ一つ違うので、ルーチンで行えるものではない。そういった点を考慮して、市長公室で調整してスケジュールを組んでほしい。

〔財政部長〕概算要求までに、ある程度の方向性を決めるということであるが、内容が漠然としているのは困る。来年度予算で要求するものを先に決めて、それらについては早めに検討し、内容を詰めてほしい。初めに、短期で検討するものと長期で検討するものを分け、概算要求に間に合わせてほしい。

〔保健所長〕健康寿命の延伸について、「若年から現役世代」という記載があるが、これまで行ってきた高齢者向けの取組はやめて、本年度は「若年から現役世代」限定で検討するということか。

〔市長公室長〕高齢者向けの事業は、部局横断的に方向性を出したり取組の内容を検討したりという点においては一定の成果が残せたので、今後は担当部局で引き続き取り組んでもらうことが前提にある。本年度は、新たに若年から現役世代向けに、どのようなことが必要なのかということを中心に検討したいと考えている。

〔保健所長〕若年層は、平均寿命と健康寿命に差はなく、健康寿命への影響も判明するのに長い時間がかかる。一方、フレイル対策は確かに形になってきたが、更に地域活動に浸透させることが必要だと考える。また、若年層まで対象を広げると通常健康づくりと変わらない。「健康寿命」という言葉を大事にするならば、高齢者への取組の更なる充実と、中年世代を対象に加える程度に絞って実施する方が、対策として生きるのではないか。

〔市長公室長〕健康寿命の延伸には、若い頃からの意識づけや運動習慣の確立が課題となっているので、そういった点を考慮して検討したい。

〔副市長〕部局横断的案件的から外れたから、フレイル対策を行わないということではない。フレイル対策は、これまでの取組を担当課において更に深掘りしてほしいと思う。また、高齢者医療費の抑制が課題となっている。統計的に、若い頃から運動習慣がある人は、高齢になってもスポーツを続けている。若い頃からのこうした習慣は、将来への保険だという考え方もあるので、併せて考えていく必要はあると思う。

〔保健所長〕理念的にはそうだが、時間がかかることであり、どの対策がどういった効果をもたらすかということが分からず、結局、一般的な対策になってしまうおそれがある。また、平均寿命と健康寿命の差が高齢者で広がるのが問題であり、若い世代への働きかけの重要性は理解しているが、それならば「健康寿命の延伸」で

はなく、「子供の体力向上」といった切り口で行った方が理解しやすいと思う。財政部長が言ったように、事業化するかどうかを考えたとき、事業化しやすいのはテーマを絞って短期的にやるというものだと思う。

〔副市長〕今の意見も参考にして、検討してほしい。

(2) あんしんいきいきプラン21、障害者基本計画等の策定について

(保健福祉部)

標記事項について、保健福祉部長から説明を行った。(資料7参照)

○質疑

〔副市長〕これらの計画は類似の計画だと思うが、策定体制に違いがあるのには何か理由があるのか。

〔保健福祉部長〕関係する課の違いである。できるだけ、関係課に負担をかけないように工夫していく。

以上